秋田県生涯学習センター　令和７年度　生涯学習・社会教育関係者研修

第１回 地域学校協働活動推進員・地域連携担当教職員等研修会　実施レポート

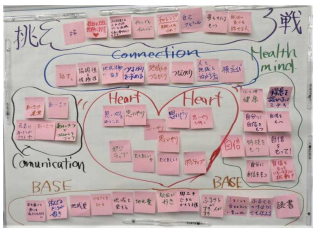
期日：令和７年６月１８日（水）　参加者：６８名（うち市町村・県立学校から４６名）

地域と学校をつなぐ関係者を対象に、『学校が地域と協働するとは？』をテーマに研修を実施しました。この研修では、参加者が研修や学習の効果を高めるための参加型学習の手法としての「熟議」の有用性を実際に体験しました。また、ファシリテーターとしての心構えや技術についても学び、地域と学校の連携を促進するためのスキルを身に付けました。

【前半　講話】

当センターの学習相談員、**皆川　雅仁**が、『学校が地域と協働するために』をテーマに講義を行い、学校と地域の横並びの関係構築や協働スタイルの実現を推進することの重要性について解説しました。まず、地域学校協働活動とCS（コミュニティ・スクール）の関係性について詳しく説明し、平成18年の教育基本法第13条の新設により、学校、家庭、地域住民の連携および協力が法的に規定されたことを紹介しました。次に、地域学校協働活動と地域学校協働活動推進員の法的根拠を明示し、その役割について学校と地域をつなぐ重要な存在であることを強調しました。さらに、CSの役割と機能について、地域とともにある学校づくりを目指す制度であり、学校運営に保護者や地域住民の意見を反映させる仕組みであることを解説しました。教育課程の作成に地域住民の参画を促進するなど、地域学校協働活動推進員が学校運営に参画する必要性も指摘しました。最後に、地域学校協働活動推進員が、未来を担う子どもたちの応援者として地域づくりの一翼を担う重要な人材であることを強調し、当センターの実践研究により形づくられた協働実現のツールである「熟議」の有用性についても触れました。

【後半　演習・講話】



当センターの副主幹（兼）学習事業チームリーダー、**柏木　睦**が『みんなで「熟議」体験！なぜ「熟議」が必要なのか？』をテーマに、演習と講話を行いました。はじめに、「秋田県の子どもたちにどのように育ってほしいか」というテーマで参加者は「熟議」に臨みました。まず、ウソつき4択を用いて和やかな雰囲気づくりを行った後、レディネスを整えテーマの共有化を図るために資料「秋田県学校教育が目指すもの」や「家族との会話、わが子との会話時間」を提示しました。次に、Jukugi Cafeのマナーを確認し、メンバーを入れ替えながら3つのラウンドで話合いを進めました。具体的には、ラウンド1（自分の思いを語ろう！相手の思いを聞こう！）、ラウンド2（多くの意見に触れ、思いを広げよう）、ラウンド3（思いを共有し、自分に何ができるか考えよう！）です。ラウンド3では、参加者がこれまでの話合いを通じて印象に残ったキーワードをピンクの付箋に記し、ホワイトボードに貼付しました。その結果は「BASE」「Communication」「Heart」「Health・Mind」「挑戦」のキーワードにカテゴライズされました。後段では、「熟議」体験や提示したスライドをもとに、「熟議」とは何か、協働に必要な要素、ファシリテーターの役割などについて解説しました。特に、「熟議」を通じて協働の意識化を促し、繰り返し行うことで協働の思考が自然に醸成されていくことを強調しました。途中、2人組で互いをほめ合うアイスブレイク（全力でほめあおう！30秒×2）や付箋を用いたまとめの体験の場を設定しながら、「熟議」の有用性や実施上の工夫、ファシリテーターの役割、求められる資質や力量などについて解説しました。

【参加者アンケートより】（抜粋）
- 地域学校協働活動の法的根拠や目的を理解でき、熟議の体験も非常に有意義でした。
- ファシリテーターの役割や意見のまとめ方で悩むことがあったので、特に参考になりました。
- たくさんの人と話せたことや多職種の方と関わることは貴重な経験となりました。「笑顔になる、気持ちよくなる」熟議をめざしたいです。